

年間、音楽を通して様々なことを学びましたが、同時に多くの宿題を持って帰国しました。

おかしな話ですが、帰国当時の私にとって新潟という土地はオーストリア以上に異文化体験の場所でした。毎日聞こえてきた教会の鐘の音、他愛もないおしゃべりをした友人、すぐそこにあったオペラ座、全てが消えてしまった。逃げ場もないような孤独の中で、テレビを見て（ストレス無しに言葉が理解できる痛快感があった!）、朝日新聞を読む日々でした。

子供も成人し、新潟での生活が落ち着いて来た頃、長年抱えてきた宿題に向き合う時が来ました。ネット番組「虎の門ニュース」が大きなきっかけになったと思います。

例えば、俗に言うキリシタン弾圧の真相を知った驚き。秀吉はキリシタンを弾圧したのではなく、そこで犠牲になっている日本人を救った。「軍国主義」と長年レッテルを張られた我が国の、最古の書物に目を通せば、神々が集い話し合いの元に政（まつりごと）を決めている。日本は古代から民主主義の国であった事が理解できます。先日、女史会の風間幸江さんから頂いた「五ヶ条ノ御誓文」にも、一貫した日本人の心を感じます。

かつて、平和ボケしていた女の子は、異境の地で「自国」に向き合うきっかけをつかみ、今や愛国の為に戦う日本会議の一員となりました。今後皆様と共に活動を続けていけることを、幸せに思います。

五ヶ条ノ御誓文（明治元年三月十四日）

一 廣ク會議ヲ興シ萬機公論ニ決スヘシ
一 上下心ヲ一ニシテ盛ニ經綸ヲ行フヘシ
一 官武一途庶民ニ至ル迄各其志ヲ遂ケ人心ヲシテ
一 倦マサラシメン事ヲ要ス
一 舊來ノ陋習ヲ破リ天地ノ公道ニ基クヘシ
一 智識ヲ世界ニボメ大ニ皇基ヲ振起スヘシ

(2) 日本会議女史会

魚沼市在住

高林 ノリ子 氏

～護國神社参拝～

令和二年八月二十三日、護國神社にご縁をいただき参拝する事ができました。

朝からすばらしいお天気に恵まれ、少し緊張しながら新潟に向かいました。

護國神社は海が近くとても景色がよくさわやかな風が吹き、この夏の暑い日なのに海風がとても気持ちよく感じました。

神社の境内はとても広く立派な建物で感動いたしました。神社をお参りさせていただき、そして「さざれ石」を見せてもらって神様が宿った石にさわらせていただきうれしく思いました。

慰霊碑の前に立った時、若い青年が全身全霊で日本の国を思い、自分の体を国にささげたとすると胸がつまる思いでした。



護国神社境内の「さざれ石」の前で

本当に心からありがたく思いました。

青年特攻隊の生き残り、新発田市にお住まいであった「中村五郎様」にお会いできたのも何かのご縁と感じました。日本の国のため最後まで一生懸命頑張って天界に旅だたれ本当に感謝の気持ちでいっぱいです。

この度、護国神社参拝は、私にとってとても貴重な日となりました。



前列右端が高林氏、後列左端が松浦氏